

KIMOTO



きもと | CSRレポート **2007**

CONTENTS

- 01 編集方針
- 02 企業理念 会社概要

事業概要

- 03 事業活動概要・財務情報

トップコミットメント

- 04 CSR(企業の社会的責任)の取り組みについて

特集 KIMOTOとの対話

- 05 CSR2年目を迎えて

マネジメント体制

- 07 CSR推進体制
- 08 コーポレート・ガバナンス
- 09 コンプライアンス

社会のために

- 11 お客様のための取り組み
- 14 株主・投資家への取り組み
- 15 地域社会への取り組み
- 17 従業員への取り組み

環境を守るために

- 21 環境マネジメント
- 22 全社での環境対策
- 23 工場での環境活動
- 25 環境配慮製品の開発
- 26 環境データ
- 27 グループの概要とCSRの取り組み
- 29 KIMOTOの歩み
- 30 第2号発刊にあたって

編集方針

この「CSRレポート」は、KIMOTOの2006年度(2006年4月～2007年3月)の社会的貢献活動についてまとめた報告書です。この報告書を作成するにあたっては、「環境報告書ガイドライン2003年版」(環境省)および「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン2002」(GRI)を参考にいたしました。本報告書は、KIMOTOのステークホルダーの皆様、すなわちお客様、株主・投資家の皆様、地域住民の皆様、お取引先の皆様ならびに従業員各位にお読みいただきたいと考えております。



企業理念

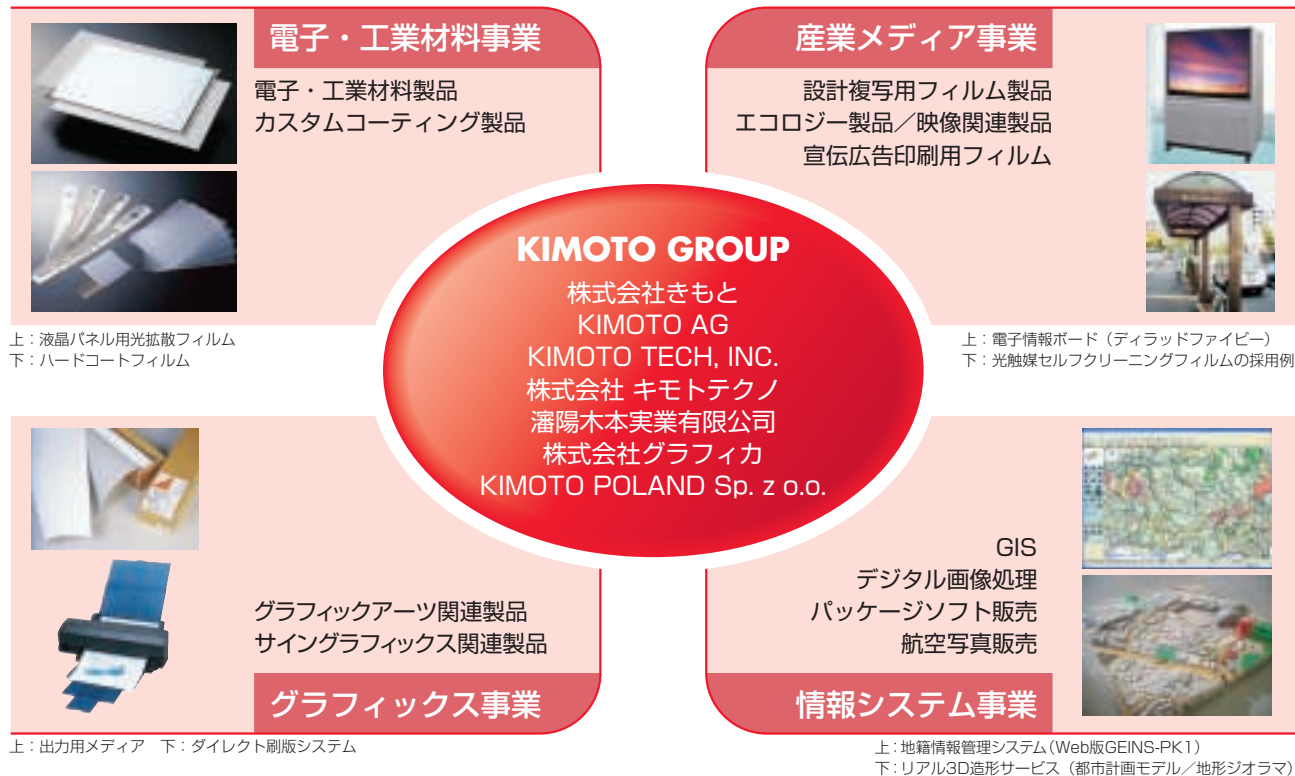
「KIMOTO」は、
世界に通ずる技術開発型の企業として、
その時代、時代に成し得る最高の専門技術と、
最高の製品・商品ならびにサービスを
内外の顧客に提供し、企業の発展を通じて、
顧客・株主ならびに従業員の満足を得ることを
旨としています。
また、よき企業市民として、
地域の発展と繁栄に寄与し、環境の保全に努め、
未来に向けて社会と共に前進する企業であることを
目指しています。

会社概要

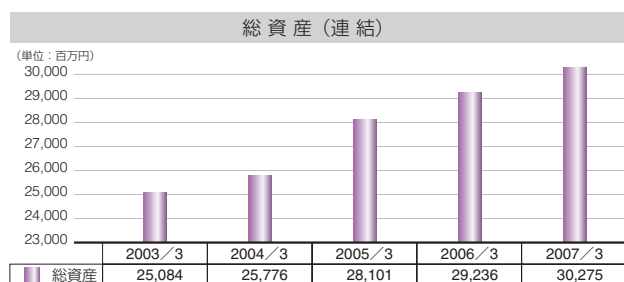
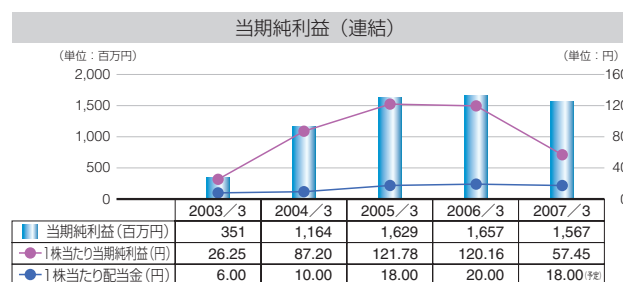
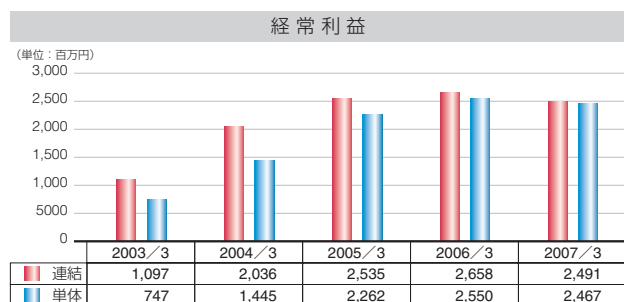
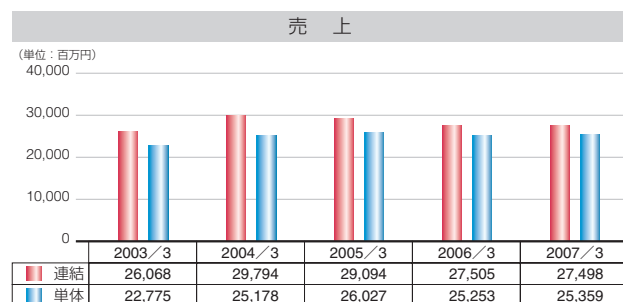
名称	株式会社 きもと
所在地	160-0022 東京都新宿区新宿2丁目19番1号
設立	昭和27年7月2日
資本金	32億7,400万円
従業員	631名（平成19年3月末日現在）
営業拠点	本店／東京都新宿区 支店／札幌市、仙台市、さいたま市、名古屋市、 大阪市、広島市、福岡市 営業所／つくば市、那覇市 海外事務所／上海（中国）、台北（台湾）
工場	三重県／いなべ市、茨城県／古河市
技術開発センター	埼玉県／さいたま市
国内子会社	株式会社 キモテクノ（東京都） 株式会社 グラフィカ（沖縄県）
海外子会社	KIMOTO AG（スイス） KIMOTO TECH,INC.（米国） 瀋陽木本実業有限公司（中国） KIMOTO POLAND Sp. z o.o.（ポーランド）

事業概要

事業活動概要



財務情報



注) 平成18年10月1日付をもって、普通株式1株につき2株の割合で株式分割しております。

一人ひとりの意識改革に向けて、
全事業所、全従業員の参加を
呼びかけています。

代表取締役社長 丸山 良克



CSR（企業の社会的責任）の取り組みについて

企業が事業活動を円滑に行い、持続的に発展していくためにはCSRへの取り組みが不可欠であり、実のある活動をするには経営者から従業員まで、すべての人の意識改革が必要と考え専任部署を置かず多くの人が参加できる委員会の形で、KIMOTOのCSRがスタートし2年が経過しました。2006年度は経営基本方針に「質の向上」を掲げ、より質の高い企業を目指してきましたが、CSRの推進はまさに企業の質を高める取り組みであり、「コンプライアンス部会」「環境・安全部会」「品質・PL部会」の3部会において具体的な内容について議論を重ね、重要な案件については制度化するべく提案を行いました。CSRレポートの発行を機会に地域貢献や地域との交流を全国的に促進するため、日々の活動には参加できない全国の事業所に対して啓蒙活動を行い、それぞれの地域の状況に見合ったCSRへの参加を呼びかけました。

また、CSR活動をグローバルに展開するため、2006年10月KIMOTOグループ会議において過去1

年間の取り組みについてプレゼンテーションを行い、アメリカ、スイス、中国にある子会社においても、それぞれの国や地域にあったCSRに取り組むことを決定しました。海外子会社における取り組みは2007年度が実質的なスタートとなりますが、中国の子会社においてはすでに活動が始まっています。KIMOTOはこれからもグループをあげて自分たちができることをしてまいります。

今後の課題

KIMOTOは機能性フィルムメーカーとして、日頃から環境に配慮した研究開発活動ならびに生産活動を続けていますが、より積極的に環境負荷を軽減する製品開発が必要であると認識しています。2007年度から始まる中期計画に環境、エネルギー、アメニティ分野に向けた新製品開発の推進を掲げ、積極的に取り組んでまいります。

CSR 2年目を迎えて 3つの部会の成果と課題を語る。

「コンプライアンス部会」「環境・安全部会」「品質・PL部会」。KIMOTOはこの3つの部会を社内のCSR推進の原動力としました。3つの部会に関わった3名の社員に、この1年の取り組みについて率直に語っていただきました。

——各部会の活動をご紹介ください。

太田：環境・安全部会では、環境にやさしい製品の開発を念頭に、コピー用紙・CO₂排出量削減など省エネ・省資源対策を主に担当しました。地震の際の社員の避難誘導などの防災マニュアルの作成・運用、いま話題のメタボリックシンドロームを含む健康管理、エコドライブなど多岐にわたりました。



コンプライアンス部会 鈴木 伸子
人事部に所属し、主に企業年金、採用、教育研修等を担当。

鈴木：コンプライアンス部会では、①子育て支援 ②従業員満足度 ③取引先との売買にからむ法令遵守 ④情報セキュリティの4つのテーマに取り組みました。私自身は「子育て支援」に取り組み、働く女性に会社として、どのような支援ができるかを検討しました。

宮部：品質・PL部会では、製品の品質、社員の質の向上、そして顧客の視点に立ったホームページの見直しと、安全性に関連してPLの仕組みづくりに取り組みました。

——評価できる点、不満の残る点をあげるとしたら。

太田：参加に当たり、CSRの本も読んだのですが、むずかしかったです（笑）。途中からは「当たり前のことをきっちりやること」だと…。全社員をその気にさせることが大切だと考えるようになりました。

宮部：同感です。品質・PL部会でも製品の安全性の見直しで、ようやく仕組みができました。でも、全社への浸透はこれからが本番です。

鈴木：このような場ができ、「子育て支援」のあり方を見直す機会が持てました。昨年は国全体の出生率もようやく前年を上回りました。職場の男女比は5対1ですが、女性が長く勤められ、正當に評価される仕組みづくりが必要です。



品質・PL部会 宮部 理慎
業務部・購買Gに所属し、製造委託品を扱う。

KIMOTOグループ会議

2006年10月に、丸山社長および各取締役と連結子会社の社長がKIMOTO本社に集まり、『KIMOTOグループ会議』が開催されました。

会議では、KIMOTOで行ってきた従来のCSR活動を、今後はグループ全社に拡大していくことが合意され、各社から活動計画が発表されました。



——運営で、印象に残ったことがありましたら。

宮部：会議はとにかく一方通行になりがちです。私たちの部会では、全員参加・全員一致を目標にしたこともあって、全員が発言しました。テーマごとにいくつか手分けをして作業を行いました。この形は良かったと思います。

鈴木：月2～3回のペースで分科会を開きました。判断しにくいテーマは月1回の部会にも諮られ、発表する機会が毎回まわってきました。反省としては、あまりに活発だったために、本来の業務に支障がでそうになったことです（笑）。

CSR委員会各部会の各リーダーのコメント

コンプライアンス部会

リーダー 松山 弘司



コンプライアンス部会は、2005年の発足以来、「社員全員が参加して行うコンプライアンス活動」を目指して活動を行ってまいりました。発足当初は、初めての組織横断的なメンバーから構成されるコンプライアンス活動ということで、どのような形で進めればよいか、多岐にわたるテーマの中から何をテーマとして活動すべきか、など試行錯誤のスタートでした。社内公募によって選ばれたメンバーはとても活気があり、自分たちなりによい活動ができた満足しています。私たちにとっては短く感じた2年間でしたが、今後は新メンバーによって、息の長いKIMOTOコンプライアンス活動を継続してまいります。

環境・安全部会

リーダー 中田 宏英



CSRという言葉に聞き覚えはあるものの、具体的にどのような活動を指しているのか把握することも無いままメンバーに加わってしまったような次第で、周りの皆さんの様子や部会会議内の発言から学ばせていただくことが多く1年間でした。振り返れば、茨城工場や研究部にて部会会議開催時に各々のEMSに対する取り組みの見学、エコドライブ講習の実施、メンタルヘルスを健全に保つためにメタボリックシンドローム対策の講習会や地域貢献できる活動の一環としてフリーマーケット出店、普通救命講習の受講など盛り沢山のイベントを通じて、ステークホルダーとの関わりが意識されるようになってきたと感じています。

品質・PL部会

リーダー 相川 森一郎



本年度、品質・PL部会は「顧客満足」「問合せ窓口」「PL」の3分科会で活動を行いました。

「PL」の活動は本レポートに記載されておりますのでご参照ください。「顧客満足」の活動は、KIMOTOホームページの現状把握調査を行いました。また「問合せ窓口」の活動は、電話対応窓口および取扱説明書や保証書の対応窓口について業務標準を作成しました。

本年度より部会に参加しましたが、日常業務に直結しているだけにやりがいはあるものの、思うように進まないもどかしさも多い1年でした。来年度はより親しみ易く、満足度の高い会社になるように活動してまいりますのでよろしくお願いします。

太田：ときには意見がまとまらず、2時間3時間の会議に



環境・安全部会 太田 哲司
企画開発部に所属し、新規市場開拓を担当。

なる場合もありました。互いのおかれた立場を理解するのに役立ったと思います。部会に参加し、家でも電気をひんぱんに消すようになりました。運転も少し穏やかになったと言われます（笑）。



マネジメント体制

誠実で高邁な理想を求める企業でありたい。
私たちはいつもそう考えています。

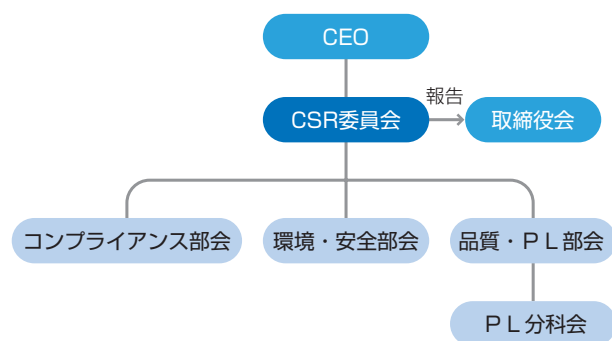


CSR推進体制

きもとのCSR体制

企業が求められている社会的責任がますます広範にわたり、全社・全組織での対応が現在必要とされているなか、KIMOTOでは2005年に「CSR委員会」を発足・活動し、本年度で2年目となりました。

CSR委員会には「コンプライアンス部会」「環境・安全部会」「品質・PL部会」の3部会と品質・PL部会の中に「PL分科会」を設置し、各組織への方向付けと活動推進に注力しております。



CSR基本方針

CSR活動を積極的かつ継続的に推進していくために、「株式会社きもと CSR基本方針」を定め活動を行っております。

今後は、海外も含めたグループ全体への展開も積極的に行っていきたいと考えております。

株式会社 きもと CSR基本方針

株式会社きもとは、事業活動に伴い生み出される経済的価値のみに着目することなく、自発的に社会的価値と責任を重視し社会の持続的な発展に貢献する経営を行うために、以下の方針を定める。

- ・事業活動にかかわる法律を遵守し、善良な企業あるいは企業人としての姿を追求する。
- ・環境保全活動に注力し、可能な限り環境負荷を低減する事業活動を展開する。
- ・顧客重視の事業活動を行う事で、顧客との相互発展を通じて社会貢献を目指す。

CSR説明会の実施

KIMOTOとして初版となる2006年度版「CSRレポート」の発刊を機に、「KIMOTOのCSR活動」説明会を開催しました。説明会は、CSR委員会メンバーが直接全国の支店、営業所、技術開発センター、各工場へ行き1時間程度行いました。今後も、直接呼びかけていくことによりCSR活動の推進を図っていききたいと考えております。



CSR説明会

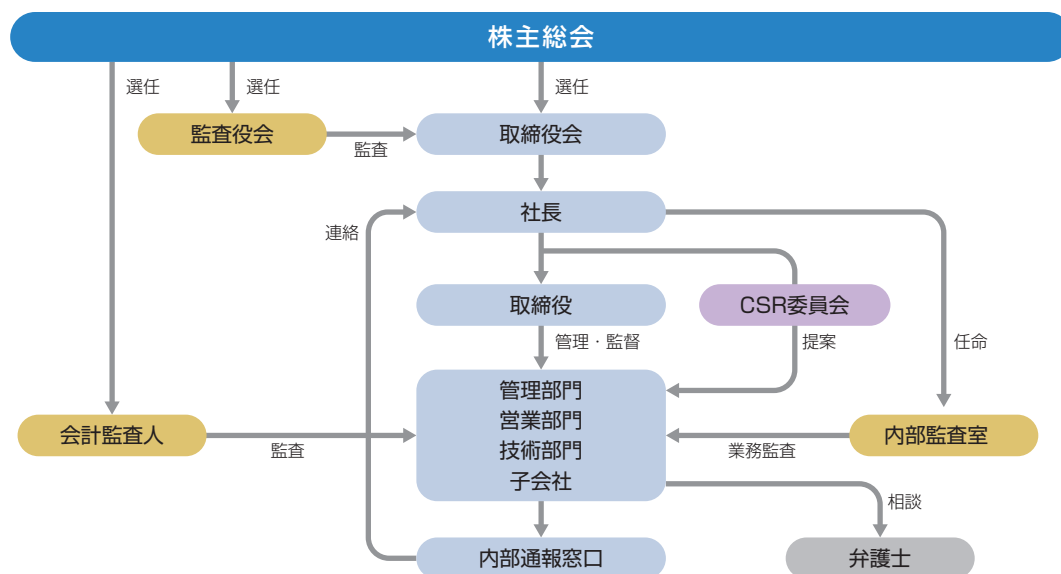
コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンスの考え方

KIMOTOグループは、「企業は、経営の効率化を図ると同時にステークホルダーに対する説明責任を果たすことで、株主の利益を最大化することを目標とする」との基本認識とコンプライアンスの重要性をコーポレート・ガ

バナンスの基本的な考え方としております。

株主の権利を重視するとともに社会的信頼に応えるため、強固な体制で取り組みを行ってまいります。



危機管理体制について

危機管理体制を構築するため、日本国内の各部署(営業、製造、研究、管理)より人選したメンバーによるプロジェクトを発足させました。

このプロジェクトの目的は、全社のリスクを洗い出して管理を行うためのチェックリストを作成することであり、具体的には、リスクの発生頻度および発生時に想定される被害金額を考慮して重要度の評価を行い、火災、地震などの「災害対策」、個人情報、会社機密情報などの「情報漏洩対策」、車両運転による「交通事故対策」、業務

処理のためのシステム「基幹システムダウン対策」、売掛金回収のための「取引先倒産対策」の5つのチェックリストを作成いたしました。

社内各部署では、これらのチェックリストを用いて定期的に業務の検証を行い危機管理を充実させてまいります。

さらに、日本国内のみならず、アメリカ、スイス、中国のKIMOTOグループ全社に展開することを最終目標としております。

コンプライアンス

情報セキュリティ体制の整備

情報セキュリティを目的として、本年度は、全社的な情報セキュリティ体系を明確化するとともに、情報セキュリティポリシーを定めました。さらに、昨年度作成した管理基準を骨格として、情報セキュリティに関する社内規程を全面的に見直し、改訂いたしました。

また、これらの内容を全社に周知させるため、情報セキュリティに関するポスターを作成し、社内への啓蒙を図っております。



交通安全講習の継続的実施（飲酒運転に関する規程の改定）

以前より、社内でポスターやストラップ等を作成し、交通ルールに対する意識の向上を図ってまいりました。その中で、本年度は特に、飲酒運転の撲滅に焦点をあてて「株式会社きもと就業規則」の見直しを行い、より明確な条文を追加いたしました。

今後も、継続的な啓蒙活動を行っていきたいと考えております。

次に該当する場合懲戒解雇に処する
(ただし、情状により論旨解雇にとどめることがある)

1. 酒酔い運転または酒気帯び運転をしたとき
2. 他の従業員の飲酒運転を教唆したとき
3. 他の従業員の飲酒運転を幫助し、または飲酒運転をした従業員に同乗したとき

独占禁止法関連法規の遵守

昨年度作成した「独占禁止法ガイドライン」に基づき、本年度は独占禁止法に対する従業員の遵法意識向上を目的とした説明会を全国で開催いたしました。

また、独占禁止法の特別法（補完法）にあたる下請法の啓蒙活動に取り組みました。購買行為において注意をしなければいけない事項をガイドラインとしてまとめるとともに、ガイドラインの中から特に注意が必要な事項について漫画を取り入れ簡潔に説明した小冊子を作成し、関係部署に配布するとともに説明会を開催いたしました。



社会のために

豊かな社会生活に貢献できる企業でありたい。
私たちはいつもそう希求しています。



お客様のための取り組み

顧客満足

お客様とともに（ユーザー会・勉強会の実施）

◎『KIMOTO Graphics User Seminar』開催

2006年7月に、京王プラザホテル5階コンコードボールルームにて『KIMOTO Graphics User Seminar – 付加価値ある新しいビジネス展開のご提案 –』と題したユーザー会を開催いたしました。

ユーザー会にはグラフィックス業界のお客様74社161名が参加し、丸山社長の挨拶に始まり、KIMOTO製品やその活用事例のご紹介をさせていただきました。説明にあたりましては、KIMOTOだけではなく、主要なお取引先様にもご協力いただきました。

また、今回は特別講演としてセーラ・マリ・カミングス氏に「情熱」をテーマに講演をお願いしました。歴史と伝統の街「小布施」にある老舗の酒屋（枳一市村酒造場）を情熱と実行力で建て直していったご自身の体験を話していただき、大反響にて講演を終了しました。

グラフィックス事業関連では、今回のようなユーザー会の他にも、セミナーや展示会出展、内覧会など今後も積極的にお客様とのコミュニケーションを図ってまいります。



特別講演風景

◎お客様とのコミュニケーション

KIMOTOでは、お客様への勉強会や新製品発表会を積極的に実施しております。また、勉強会だけではなく内覧会や展示会などを開催することにより、お取引先様とのコミュニケーションを深めるとともに、新技術や業界動向など知識の向上と情報の共有化を図っております。

社員コメント

ユーザー会を終えて

グラフィックス営業部
部長 高田 正



この数年、印刷・広告などの業界団体主催による懇親会や報告会に出席することが多数あり、いろいろな方の講演を聴く機会に恵まれました。自民党の片山さつきさん、スポーツジャーナリストの二宮清純さん、シンクロの武田美保さん等々。どの講演者の方も素晴らしく、聴講後は感動の余韻を味わいながら懇親会で談笑となることがほとんどでした。

今回、KIMOTOが特別講演を依頼したセーラ・マリ・カミングス氏の講演は特に素晴らしいものでした。講演の内容は、セーラ・マリ・カミングス氏が歴史と伝統の街「小布施」にある老舗の酒屋（枳一市村酒造場）に就職され、安いお酒に圧倒され苦境に立たされていた枳一を、情熱と実行力で建て直していくというものでした。

この中で、私が特に印象的だったのが『動けば、常識や反発の壁にぶちあたる。でも、実際にやるのが大事。』という言葉でした。私達は行動した人を批評するのではなく、行動した人を称賛し自然にバックアップできる組織でありたいと思います。

KIMOTO Graphics User Seminarにお越しいただいた皆様も、セーラ・マリ・カミングス氏の仕事に対する考え方に感銘を受けたとのコメントを多数いただきました。

ぜひ機会がありましたら、枳一市村酒造場のホームページをご覧ください。

(<http://www.masuichi.com>)



新製品発表会

品質管理

品質管理体制

KIMOTOでは、機能性フィルムおよび情報システムの2つの事業部門で、それぞれISO9001の認証を取得しております。

機能性フィルム事業部門では、1995年に日本規格協会で審査登録され（JSAQ035）、2003年より登録範囲を拡大し、全国展開を行いました。

また、情報システム事業部門では、2001年に日本規格協会で審査登録されました（JSAQ1259）。さらに2005年より登録範囲を拡大し、全国展開を行いました。

現在では全国的に品質マネジメントシステムも根付き、品質保証室を中心に一層の品質向上、コスト削減、顧客満足度向上に努めております。



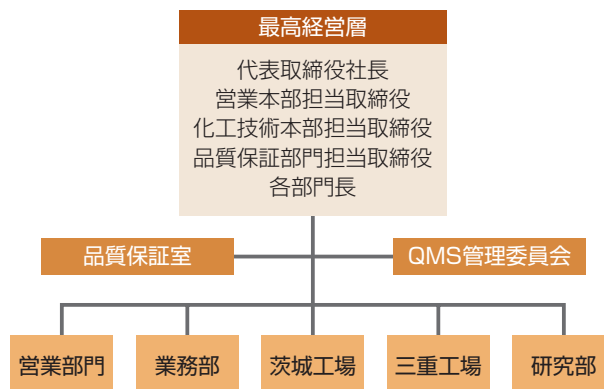
ISO9001登録証・付属証

ISO活動状況

KIMOTOでは、ISO9001の認証を取得し、毎年外部機関による維持審査を実施しております。機能性フィルム事業部門では、本年度よりEMSとの統合審査を行っており、2006年5月に機器類の外部製造委託が拡大したことに伴う拡大維持審査を実施いたしました。さらに、2007年2月には3年ごとに実施される更新審査を行いました。情報システム事業部門においては、2006年7月に維持審査を実施しました。

外部審査以外にも、品質管理責任者が中心となり定期的に内部品質監査を実施しております。本年度は、内部品質監査で数十件の改善提案があり、それぞれについて改善活動を推進しております。

QMS組織図（機能性フィルム事業部門の場合）

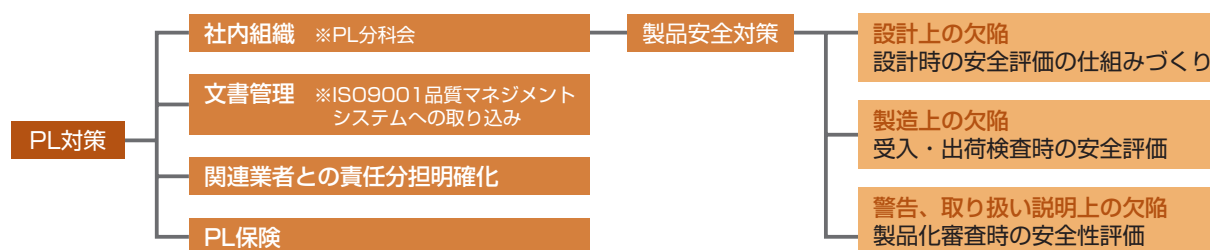


製品安全

製品の安全性への取り組み

近年、製品安全の不備が社会問題化していることを受けてKIMOTOでは、昨年度、CSR委員会の品質・PL部会において製品安全対策の見直しを行いました。従来の社内組織とPL保険に加え、製品設計段階における評価を充実させるためにPL分科会を設置いたしました。

安全性評価の仕組み



製品の安全対策（PL分科会活動）

KIMOTO製品安全対策の見直しを行い、製品化前の評価を充実させる目的で、品質・PL部会内に「PL分科会」を設置し、取締役3名を含む7名のメンバーを中心に活動いたしました。

従来はフィルム製品が中心でしたが、最近は外部委託による装置製造が徐々に増えてきているため、「PL分科会」の役割は大変重要になっております。

活動内容は、月例会議のほか、必要に応じて「PL分科会」のメンバーと関係者が集まり安全性のチェックを行っております。本年度は、製品設計時における安全性評価（安全性チェックシートの承認）45件、製造委託品1号機検収時に安全性の確認4件のチェックを行いました。

今後は、KIMOTOが輸入販売する商品についても「PL分科会」が中心となり、安全性評価を進めていく予定です。



ディラッド電動スクリーン

主に、モーター過負荷時の発火の安全性評価を実施



キモテトラミネーターV型

主に、ヒーターの発火安全性評価と手の巻き込まれ防止評価の実施

株主・投資家への取り組み

株主とのコミュニケーション

◎『日経IRフェア2006夏 STOCKWORLD』に出展

KIMOTOは、2006年7月に東京ビッグサイトで開催された個人投資家向けIRイベント『日経IRフェア2006夏 STOCKWORLD』に出展いたしました。

個人投資家向けIRイベントへの参加は初めてでしたが、多くの投資家の方がブースへ来場され、KIMOTOの製品、技術について、知っていただくよい機会となりました。

ご来場者には、KIMOTOの株主の方も多く、激励の言葉やKIMOTOをご存知なかった投資家の方からは、購入を検討する、隠れた好銘柄である等のご意見をいただき大変有意義な出展となりました。

今後も、投資家の皆様とのコミュニケーションを積極的に推進するため、各種イベントへ参加してまいります。



日経IRフェア2006夏「KIMOTOブース」

◎株主懇談会

2006年6月開催の定時株主総会終了後、同会場において株主懇談会を開催いたしました。この株主懇談会は本年度で2回目となりますが、開示資料による2007年度営業戦略というテーマで部門別営業戦略および製品案内をいたしました。

なかなか株主の皆さんに直接語りかける機会が少ないので、とても有意義な時間となりました。



株式に関する情報

◎株式分割を実施

2006年10月、KIMOTO株式の流動性の向上、投資家層の拡大を目的とした、株式の分割を実施しました。

株式を1株につき、2株の割合をもって分割したことにより、発行済株式総数27,386,282株となりました。

株式分割に伴い、2006年10月にKIMOTO定款を変更し、発行可能株式総数を4,968万株から4,032万株増加させて9,000万株としました。

2007年3月期の配当予想につきましては、現在のところ配当総額に変更はありませんので、株式分割に伴い、1株当たり予想期末配当金6円を予定しております。

◎株式売出し

KIMOTOは、2007年2月にさらに多くの投資家の皆様から注目される企業として成長していくために、株式の流動性を向上させ、投資しやすい環境を提供することにより株主数の増加を目指し170万株の株式売出しを実施いたしました。

多くの株主様からの継続的ご支援をいただける企業として今後とも精進してまいります。

地域社会への取り組み

地域

地域交流の推進

●KIMOTO杯開催

三重県いなべ市の三重工場では、地域住民とのコミュニケーションの一環として昨年に引き続き『KIMOTO杯スポーツ少年団軟式野球大会』の第2回大会が2006年7月に開催されました。チーム対抗の熱戦に親子で大いに盛り上がりました。



●「花いっぱい運動」に参加

茨城県古河市の茨城工場では、市が主催する「花いっぱい運動」に毎年参加しております。これは、地域全体で花づくりに取り組むことで、社会を美しく明るく住みよいものにするまちづくりと、住民の心に「ふれあい」と「思いやり」ある美しい花を咲かせる人づくりを目指すものです。この運動に参加することにより、地域交流と工場美化に積極的に取り組んでおります。



●日本赤十字に寄付

CSR委員会の環境・安全部会では、フリーマーケットに参加しました。部会のメンバーは、以前より「地域貢献、地域交流活動」の重要性を感じつつ、何ができるか

検討を重ねてきました。

各自が持ち寄ったいろいろな品物（本・CD・DVD・タオルセット・皿・グラスセット等）の売上金は日本赤十字社へ全額寄付いたしました。



●「仙台・まもらいだー」

仙台支店では、仙台市教育局で主催している学校防犯車両「仙台・まもらいだー」に登録を行いました。この学校防犯車両とは「児童生徒が声かけや痴漢、不審者等の被害から逃れるために助けを求めてきたときに一時的に逃げ込む車両、110番通報してくれる車両」のことです。営業車に「仙台・まもらいだー」のステッカーを貼って移動することにより、防犯予防効果も高いとされています。



●事務所周辺の美化活動

支店および工場では、始業時間前の早朝の時間を利用して事務所周辺の清掃を積極的に行っております。



インターンシップの受け入れ

毎年、在学中の方々に将来（就職）を考えるうえで少しでもお役に立てばとの考えから、インターンシップの受け入れを積極的に行っております。

三重工場および茨城工場では、近隣の中学校や高校からの学生を受け入れ、職場体験をとおして社会で働くことを実感していただいております。

また、本社、技術開発センターでは大学生のインターンシップを受け入れ、実際の仕事を体験していただいております。

社員コメント

インターンシップを経験した感想

茨城工場
高橋 順子



私は、大学3年生の時にインターンシップという貴重な経験をすることができました。インターンシップでは、知的財産室で主に特許関連のことを学びました。今まで知らなかった特許に関することを、丁寧に優しくご指導していただき、とても勉強になりました。学生の時に、会社の組織を経験できたことは自分にとってプラスになり、よかったなと思います。

また、そのときの印象として会社の雰囲気がとてもよく、皆さんが生き生きと働いていると感じ、私もKIMOTOの一員となって働きたいと強く思いました。そして、念願がかなわないKIMOTOで働くことができとても嬉しく思っています。不安で一杯ですが、精一杯頑張っていきたいです。

社会（保安・防災）

防災マニュアル

国内で大規模な地震発生の可能性が指摘されていますが、KIMOTOは危機管理の一環として大規模災害を想定した防災マニュアルを作成しました。

社員や資産、業務等に大きな被害をもたらす災害に対して、組織体制、緊急連絡網（帰宅支援マップの作成）、情報の収集と提供、応急救護・初期消火・避難、復旧対策、災害予防対策、防災訓練・防災教育を定め、社員の防災意識を高めつつ備えております。



救命講習会への参加

KIMOTOでは、安全衛生管理の一環として、社員の普通救命講習会への参加を奨励しております。

救命講習会とはCPR（心肺蘇生法）やAED（自動体外式除細動器）を実習するもので、消防署が中心となって、全国各地で催されております。

心臓停止から約3分、呼吸停止後では約10分で死亡率50%というデータが出ており、119番に通報してから救急車到着までの間の応急手当、早い心肺蘇生が傷病者の救命にとっても重要です。

人工呼吸から胸骨圧迫、さらにAEDの使用という一連の流れを、単にテキストを読むだけでなく、実際に体を動かして学ぶことは、これらをマスターするためには必要不可欠です。また、この講習会を受けることで、人と人との関わりや命の大切さを学びよい機会になります。

講習会に参加する機会をすることにより、意識向上を図るとともに継続させていくことは非常に大切なこととKIMOTOは考えております。



AEDの実習風景

海外CSRトピックス

無私に献上する愛で、校庭を暖かくする ～コンピューター等の寄付について～

2007年1月に瀋陽木本実業有限公司（SKI）で、従業員全員に“送温暖、献愛心”（思いやりを届け、愛を捧げる）という活動に参加するように提案をしました。身の丈にあった活動をということで、自らの意志で寄付するという原則を堅持し、会社の2階に、“愛心角”というコーナーを設置しました。多くの従業員の賛同を得て、100人近い人達が金銭、防寒服、防寒靴、靴等を寄付しました。

2007年1月に再度、法庫邦牛堡小学校（2003年1月にもこの学校にパソコンを8台寄付しました。）へパソコン10台を寄付しました。さらに今回は、康平王家溝希望小学校へパソコン10台を寄付しました。それ以外にも、衣類約300枚、小麦粉16袋と食用油15個（寄

瀋陽木本実業有限公司 総経理 陳 青

付金で購入したもの）を寄付して、従業員たちからの愛を届けました。

今回の寄付活動は、SKIの従業員の気持ちを体現し、SKIが大変結集力のある団結の組織であることを証明しました。



従業員への取り組み

働きやすい職場づくり

KIMOTOでは、多様な人々がそれぞれの能力を十分に発揮し、生き生きと働くことができる職場づくりに取り組んでおり、本年度は女性の職場環境の整備に力を注いでおります。

再雇用制度

出産、育児などで退職を余儀なくされた社員に対し再雇用を認める社内制度を導入しました。これは、ある一定の条件を満たしていることが前提となりますが、この制度によって特に女性の働き方の幅が広がりました。

また、この再雇用制度は出産、育児だけではなく介護の場合も同様の制度になっております。



コース変更

現在、KIMOTOでは自分の生活設計や適性に合わせたコースを選択できる、コース制を導入しております。コースは大きく分けて①総合（幅広い視野や知識）②専任（一定分野の高度な専門職）の2コースで、総合コースは、勤務地域ならびに働く仕事（職掌）に定期的なローテーションが行われ、専任Bコースは職勤務地域または働く仕事（職掌）の一方を限定できます。

また専任Aコースは、働く地域ならびに働く仕事（職掌）の両方を限定することができます。

コース変更は、従来から一定条件で原則2回認められていましたが、より柔軟な制度とし、結婚や出産・介護など生活環境の大きな節目にも、コース変更が可能となりました。

従業員満足度

従業員満足度調査

本年度から、従業員満足度を高めるために会社は何をすべきかを把握し、積極的に問題点の改善を図ることを目的として、従業員全員を対象とした従業員満足度調査を実施いたしました。調査は、正社員、派遣社員やアルバイトなどすべての従業員を対象とし、調査結果の客観性を担保するために社外の専門調査会社に委託して行いました。

専門調査会社からの報告では、従業員満足度ランキングでは製造業130社中の第1位という喜ばしい結果でした。

一方、改善すべき点も調査によって明らかとなりましたので、従業員満足度のさらなる向上を図ってまいります。

マイロクニュース

CSR委員会の環境・安全部会では、2006年1月からおよそ2カ月に1度、社内向けニュースレター「マイロクニュース」を発行しています。

「マイロクニュース」は、環境問題・安全衛生の向上に取り組む企業風土を育むために発行しております。内容は、これから世界的に厳しくなる環境基準をクリアするための社内の取り組み、部会メンバーが参加した各種講習会の様子、全社的に共有すべきテーマなどです。

本年度は、①平成20年度から施行される二酸化炭素排出量の集計義務化に向けて、排出量の削減に本格的に着手すること ②従業員の安全衛生環境を継続的に改善していくことを今後の課題として確認しました。

製造現場の専門的な取り組みに加え、個々人の取り組みが重要であり、両テーマを題材として引き続き発行していく予定です。



子育て支援

2005年4月に「次世代育成支援対策推進法」が施行されましたが、KIMOTOでもいろいろな支援への取り組みを行ってきました。

また、全社員および社員のご家族へ、本年度改善してきた内容を記載した「子育て支援便り」を作成し配付いたしました。今後も、KIMOTOは仕事と子育ての両立を応援していきます。



イベント休暇の導入（2007年4月施行）

小学6年生までの子供がいる社員が対象（子供1人につき2日）

法定休日または所定休日以外の日に実施される授業参観や運動会等の学校行事に参加する時に取得することができる、イベント休暇を新しく導入しました。この制度は、男性も女性も関係なく、子育てに参加していただくという思いから作られ、取りにくかった年次有給休暇からでなく、特別休暇として新たに誕生したものです。

この制度の導入により、以前より学校行事に参加しやすくなり、家庭でのコミュニケーション向上につながればと考えております。



社員コメント

イベント休暇について

法務・知的財産室
高橋 礼子



今回、会社が子育てを支援する「イベント休暇制度」ができて、本当にうれしく思っています。働くお母さんにとって、年次有給休暇の残日数はとても切実なものです。子供が小さければ小さいほど子供の看病などで年次有給休暇を使わなければならないので、保育園や学校の行事に参加できなくなる人が多いのではないのでしょうか。

でも、イベント休暇があれば「これは！」という行事には参加することができます。

また、この制度は働くお母さんだけでなく、働くお父さんも取得できるようです。普段、子育てに参加できないお父さんも、イベント休暇を使って積極的に行事に参加すれば、子供たちも大喜びするのではないのでしょうか。

育児休業期間中の勤続年数算定基準を改定（2007年1月施行）

女性は、産休や育児休業をとることによる滞留年数*の影響で最大で3年間昇格が遅れることがありました。今回の見直しにより、最大でも2年間の滞留年数となり、女性のキャリアにマイナスとなっていた妊娠・出産が、滞留年数が緩和されたことにより改善され、働く意欲につながっていけばと考えております。

*滞留年数とは、昇格の際、評価基準が満たされない場合に、現在の等級に滞まっている期間のこと。これにより昇格が遅れることがある。

妊娠期間中の短時間勤務の導入（2007年1月施行）

女性社員は、妊娠に関する届出書を提出後、産前休暇までの期間に短時間勤務を選択することができるようになりました。

この制度の導入により、体への負担も軽減され働きやすい環境になりました。



人材開発

KIMOTOの人事理念は、第一に「人間重視」を掲げており、会社は自ら向上しようと努力する社員を尊重し、能力を発揮できる場を積極的につくることとしております。第二に「育成主義」を掲げており、“人材”は“人財”との考え方に基づき、人材開発を重要な位置づけとしております。

人材育成のキーワードは「自律型」

自分の能力を最大限発揮することができる「自律型」社員が育つような社内風土、また自ら成長する意欲と部下育成マインドがあふれる社内風土を醸成中です。

KIMOTOでは、各階層の社員を対象としたさまざまな人材開発プログラムを用意しております。

初期研修として新入社員研修・半年後の新入社員フォローアップ研修、中途採用者もすぐに同階層者の研修に参加できるほか、2年目以降も問題解決やコミュニケーションスキル研修と成長過程を追って、その階層ごとのコアの研修を行っております。

さらに「リーダーシップは備わっているのではなく、開発されるものである。誰でも良いリーダーになれる。」この考えに基づき、若い時からリーダーシップ開発教育をはじめ、また現場の管理職が自ら率先して「良いリーダー」を実施していく仕組みづくりが「自律型」には欠かせません。

2003年度より将来の幹部育成のために「KIMOTOビジネススクール」を開講し、管理職層に対し経営知識等の強化を図っています。そして、KIMOTOは、自律型社員をこれからも育成すべく、大切な宝物に輝きを与えていきたいと考えております。

人材開発研修

		スキルレベル	研修内容
3	キャリア活用期	社内において当該職種専門分野に係る技術や方法などビジネスをリードするレベル。 当該分野の第一人者。 市場での評価を得る。	組織運営 経営 スキル
2	専門分野確立期	スキルの専門分野が確立し、自らのスキルを駆使することによって、業務上の発見および解決をリードするレベル。	マネジメントレベル スキル OJTリーダースキル
1	キャリア形成期	スキルの専門分野が確立するには至っておらず、当該職種の上位レベルの指導の下で、業務上における課題の発見・解決を行うことができるレベル。	OJT担当レベル スキル

労働安全衛生

労働安全衛生活動全国展開

2006年より、主に従業員50名以上の事業所で行っていた安全衛生活動を、全社的に推進していくため小規模事業所についても活動組織（支店、営業所、物流センター）の拡大を図りました。

各支店の支店長、営業所長を推進者として講習会などに参加し、各部署での労働安全衛生法の遵守と労働災害の防止に努めております。

メタボリックシンドローム

2006年12月、生命保険会社の講師による「からだ快適セミナー」を本社にて開催いたしました。セミナーには、健康に関心が高い多くの方が参加しました。開催後に集計したアンケートでは、セミナーの内容は役に立ったという意見が寄せられました。今後も全ての従業員が健康に留意し仕事ができるよう、このようなセミナーを開催する予定です。



からだ快適セミナー

社員コメント

全社的な安全衛生活動推進に向けて

仙台支店
支店長 堀澤 和也



本年度、安全衛生活動の見直しに伴い、支店、営業所において「安全衛生推進者」「交通労働災害防止担当管理者」が選任されることとなり、それぞれの講習を受けました。講習では、不安全な行動（体調不良、操作ミスなど）・不安全な状態（機器の欠陥、整備不良、環境など）、リスクアセスメント、そして管理上の欠陥の管理が強調されていきました。今回の講習および講習時に配布された「安全衛生推進者必携」および「交通労働災害防止担当管理者必携」をもとに、活動・啓蒙し健康で事故のない職場を目指してまいります。



環境を守るために

自然環境の保護に寄与できる企業でありたい。
私たちはいつもその努力を続けています。



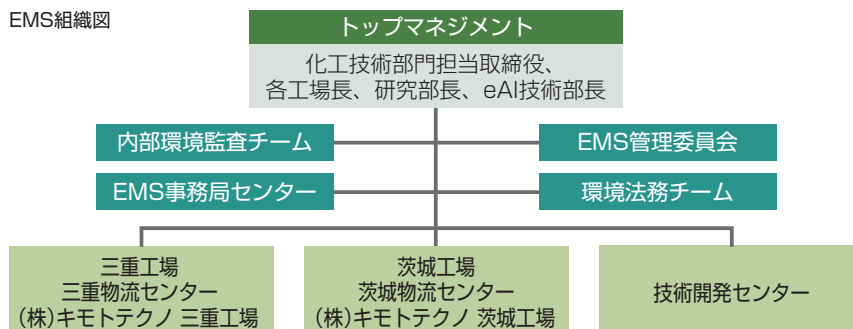
環境マネジメント

ISO認証取得

KIMOTOでは、2001年、三重工場において環境マネジメントシステム ISO14001:1996 JSAE938 の認証を取得しています。さらに2002年には、茨城工場、物流センター（茨城、三重）、技術開発センター（研究部、eAI技術部）が拡大認証を取得、環境方針を定めて環境改善に取り組んでおります。

なお、2005年に2004年度版への移行を行っております。

EMS組織図



環境監査

当社のISO14001審査登録事業所では、定期的に審査登録機関による外部審査を受けるとともに、環境マネジメントシステムの適合性や有効性を確認するために内部監査員による内部環境監査を毎年2回実施しております。

この内部環境監査では、情報の共有化、内部環境監査の質的向上等を目的に他事業所の内部監査員も参加する相互監査方式を取り入れております。

2006年度は、7月と12月の2回、登録事業所の全組織を対象に延べ監査員93名により実施しております。

監査結果は、EMSシステムから大きく逸脱している不適合は認められていませんが、軽微な指摘事項が総計25

件検出されて、速やかに是正処置を講じております。

外部監査につきましては、2007年2月に審査登録機関による3年毎の更新審査が行われ、観察事項1件、改善課題1件の指摘を受けたものの「登録更新」が承認されております。

内部環境監査結果（2006年度実施）

	被監査部署数	監査員数	不適合件数
2006.7	44	46	11
2006.12	44	47	14
合 計	88	93	25

◆◆エコ検定受験記◆◆



取締役 杉山 靖典

エコ検定とは正式には環境社会検定試験といい、東京商工会議所が行っている試験です。その第一回試験が平成18年10月に開催されました。

第一回ということもあり、公式テキスト以外に参考書が無く、通勤電車の中で公式テキストを読む程度の準備しかできませんでした。

試験当日、私はさいたま市の試験会場である大宮商業高校（だいたい各都道府県に1カ所ぐらいは会場があるようです）まで、環境に配慮して約30分かけて自転車で行きました。同じ試験会場だけで約600名が受験しており、受験者も学生から、主婦、お年寄りまで多岐にわたっていました（サラリーマンが最も少なかったように思います）。受験者の人と少し話したところ、受験動機については、学生は専門学校で先

生に勧められた、主婦はNPO関係、お年寄は脳のトレーニングというのが多かったです。

問題は4択や3択のマークシート方式で、知っていればできる（推理することは難しい）問題であったので、勉強しておけばできると思います。苦勞したのはマークシートを塗りつぶす作業で、これは老眼の域に達した私には厳しかったです。

今回の全国の受験者が1万3千人余、合格者が1万1千人余とのことで、「70点以上合格」の割りに合格率が80%と高かったのは、第一回ということで環境に対する意識の高い人が受験したためではないかと思えます。私も約1ヵ月後に合格証を受け取り、晴れて「エコピープル」の仲間入りができました。エコ検定に合格すると「エコピープル」になれるだけで、今のところ他に特典は無いと思いますが、環境の知識を得たい方には、ぜひ受験をお勧めします。

(http://www.eco-people.jp/whats_eco_ken.html#01参照)

全社での環境対策

チーム・マイナス6%への取り組み

節水、節電、省資源の意識を啓蒙する目的で、「こまめに消そう不要な照明（電気）」「きちんと締める 水道蛇口」「貴重な資源 皆の意識で次世代へ」の3種のステッカーを作成し、支店等の各事業所でそれぞれ洗面台の正面、照明スイッチ付近、コピー機やコピー用紙のストック棚付近などに貼付しております。以前は誰もいないのに照明がついたままになっている部屋があるなどが散見されましたが、最近ではこまめにスイッチを消すことが定着しました。また節水についての意識も高まっており、食器等を洗う際にも蛇口を開けたままにすることが無くなりました。よく水切りをして拭き取り紙の節約も心がけられております。

今後も、意識向上のための取り組みを積極的に推進してまいります。



リサイクル推進

昨年度より、各フロアーに回収箱を設置するなど、裏紙利用を全社的に推進してきました。その結果、以前より意識も向上し社内用資料のコピーは裏紙使用が普通となってきました。また各部署では、コピー用紙だけではなく筆記具等の消耗品についても無駄に購入しないよう、共有BOXに展示会やお取引先様からいただいたものを納めて有効活用されるようにしております。一人ひとりの取り組みはわずかでも、全社では大きな成果につながっていくと考えております。



エコドライブ講習会

環境問題がクローズアップされているなか、昨年度、CSR委員会の環境・安全部会ではエコ運転に注目し、損保会社が主催する講習会へ参加をしました。エコ運転を心がけることは、環境維持だけではなく安全運転にもつながり、自動車事故の防止にも役立ちます。そこで、本年度エコドライブの全国展開を行うため「エコドライブで安全運転」というビデオを各拠点で閲覧する機会を設け、その際に「エコドライブへのコツコツ読本」を配付し、会社全体での「エコドライブ」推進に取り組みました。



エコドライブ講習会

工場での環境活動

KIMOTOは、すべての事業活動に伴う環境に対する負荷を最小限にすることが、企業の社会的責任と考え、工場においてもISO14000を取得するとともに環境負荷低減活動に取り組んでいます。

液製造工程-1

フィルムに塗工する塗工液（塗料）を製造する工程では、少量の液を製造したり塗工ステーションへ塗工液を運搬する際に使用するポットにフィルム製の袋で内貼りすることにより、洗浄溶剤の使用量削減および作業軽減を図っております。



液製造工程-2

液製造工程で発生する廃油や洗浄用溶剤は、溶剤回収装置により再生し、洗浄用溶剤として再利用しております。



《液製造工程》

製造容器（タンク、POT）に所定量の溶媒（有機溶剤、水など）、樹脂、必要に応じて着色材（顔料、染料）や添加剤を混合し、濾過を行い塗工液が作られます。



液製造工程-3

樹脂液や溶剤が入っている石油缶は使用後、このリフターによりつづがれます。

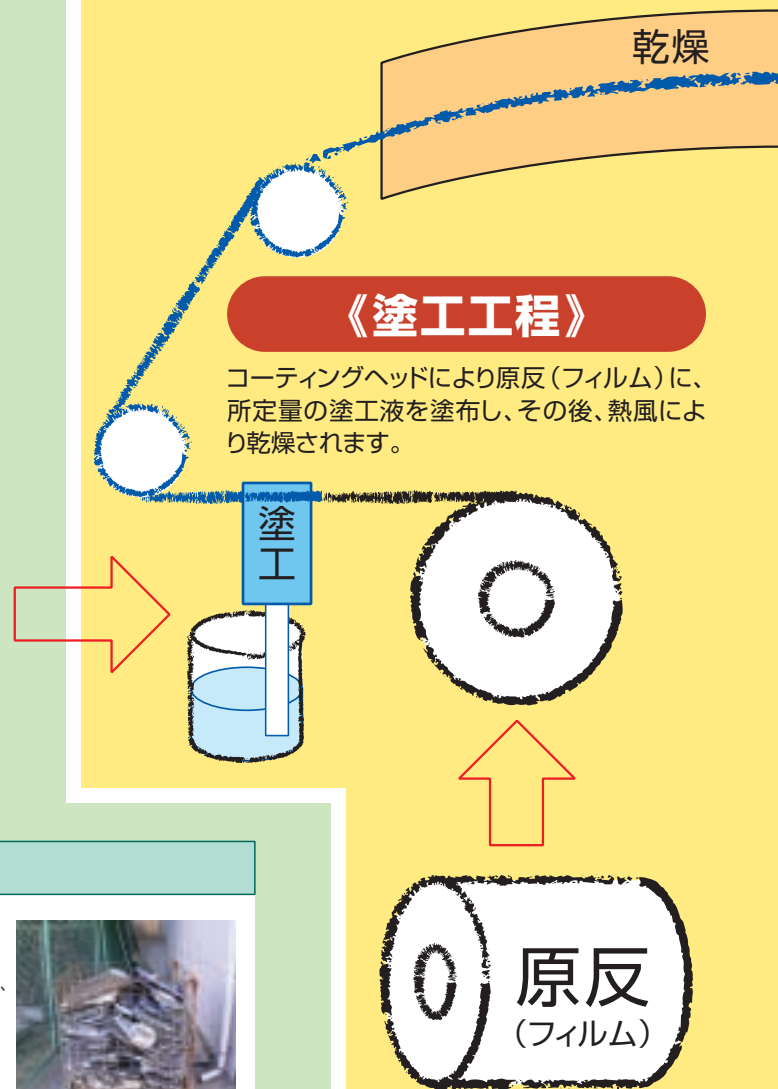


リフターによって減容化された石油缶類は、分別回収し、資源として販売しております。



乾燥工程-1

当社では、フィルムに塗工した塗料を乾燥するためにボイラーを使用していますが、ボイラーの排水は適切に処理したのち、排水しております。



乾燥工程-2

フィルムに塗工した塗料を乾燥する際に発生する有機溶剤ガスは、蓄熱式脱臭炉によって焼却し、VOCの大気放出をなくするとともに、熱回収を行い、回収した熱は乾燥に再利用しております。

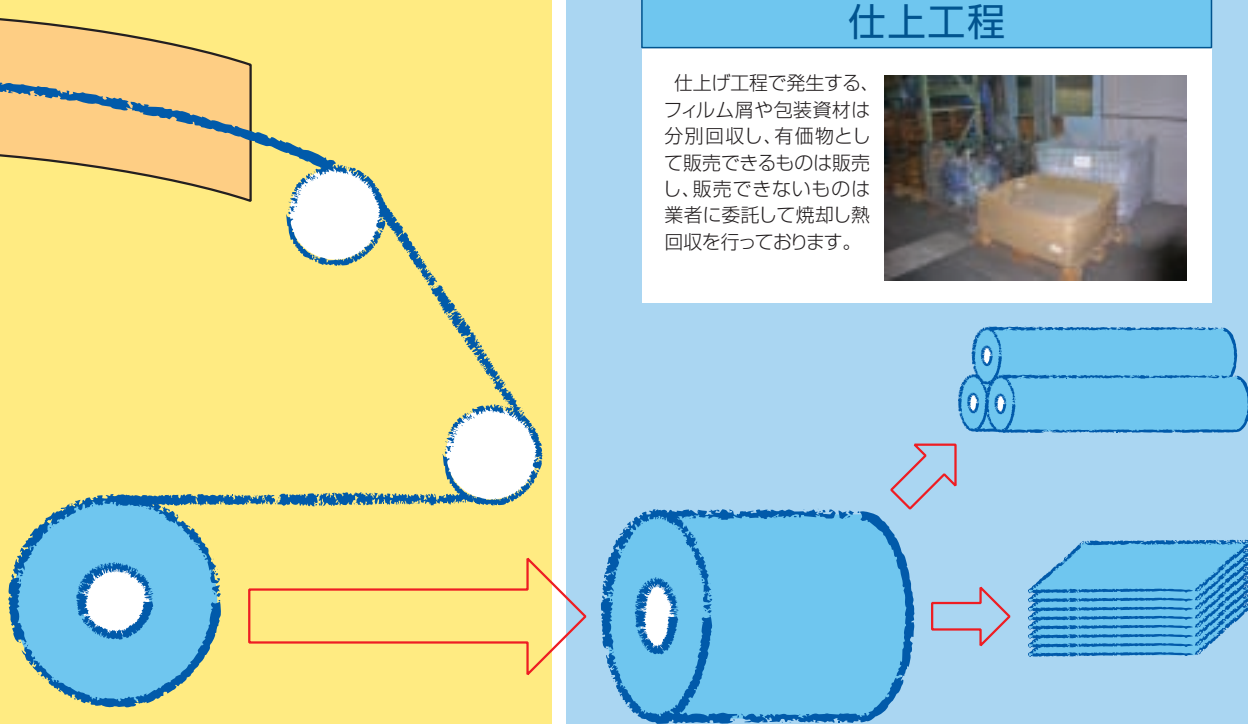


《仕上工程》

塗工・乾燥されたフィルムは、検査後巻き取られ所定の長さやサイズに加工された後、箱詰め、ラベルを添付し、ユーザへ出荷されます。

仕上工程

仕上げ工程で発生する、フィルム屑や包装資材は分別回収し、有価物として販売できるものは販売し、販売できないものは業者に委託して焼却し熱回収を行っております。



塗工工程

製造工程で発生するフィルム屑は、分別回収し有価物として販売することによりリサイクルしております。



廃棄物集積

廃棄物は分別し、集積しております。



環境配慮製品の開発

環境にやさしい製品開発

KIMOTOでは環境配慮型製品を、

- (1) 製造上今までの製品より環境に対する負荷を低減したものの
- (2) 使用上今までの製品より環境に対する負荷を低減したものの
- (3) 環境改善に直接寄与するテーマとして定義づけ、開発を推進しています。

本年度は、「植物由来ビューフル（仮称）」や光触媒フィルムの新しいラインナップ「ラククリーン デュオ」「ラククリーンFT2」などを開発し、2007年3月に開催された展示会「Japan Shop」に参考出品いたしました。

●「植物由来ビューフル（仮称）」

とうもろこしを原料とするポリ乳酸基材を用いた印刷ステッカー用の材料です。予めクリアな粘着剤が設けてありますので、窓に貼るだけで美しいウインドウディスプレイが作製できます。

植物は成長過程で光合成を行い炭酸ガスを消費します。植物由来材料を焼却して発生する炭酸ガスは、植物が取り込んだものであり、さらに次の植物の成長に利用されるので、「カーボンニュートラル」と位置づけられており、地球温暖化防止や石油資源の使用削減に有効な、地球に優しい材料です。

●光触媒フィルム「ラククリーン DUO」「ラククリーンFT2」

「ラククリーン DUO」は光触媒フィルム「ラククリーン」に熱線反射機能を持たせたトップライト（天窗）用ウインドウフィルムで、窓に貼るだけでセルフクリーニング（自己洗浄）効果と日射を反射することによる省エネ効果が得られます。

「ラククリーンFT2」はフッ素基材を用いた「ラククリーンFT」に紫外線カット機能を付与したもので、屋外看板に使用することにより、看板の長寿命化に貢献します。

●従来製品の環境配慮開発も推進

その他の製品開発においても、「VOCや有機溶剤の使用削減」「環境規制物質の使用削減」に取り組んでおり、製造においては「歩留向上」「高速塗工による生産性向上」などの環境配慮に努めております。



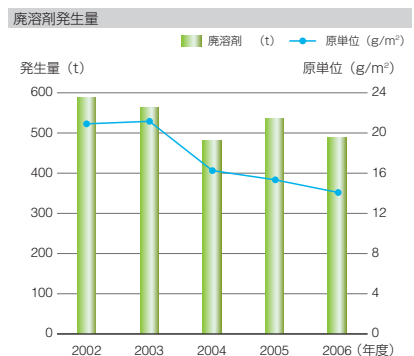
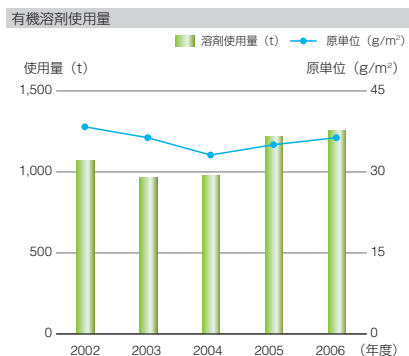
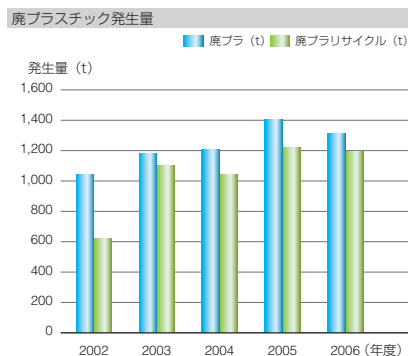
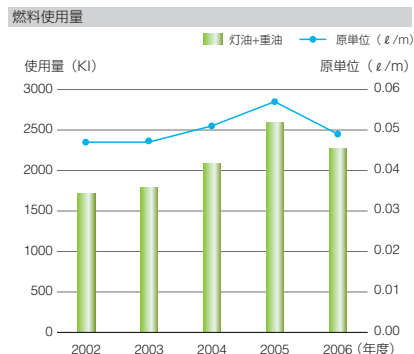
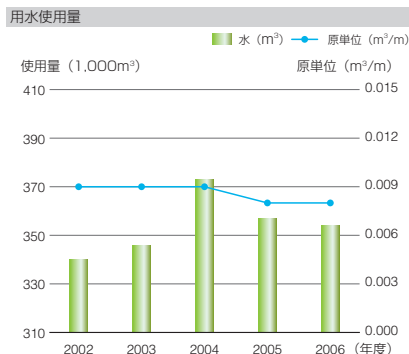
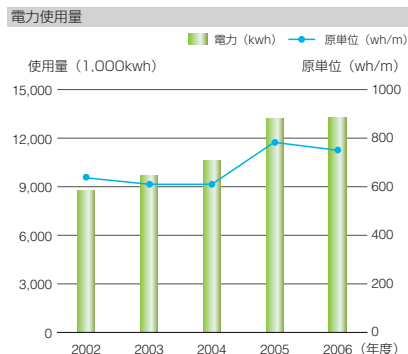
トップライト（天窗）



ラククリーンFT試験施工（中央が貼付部分）

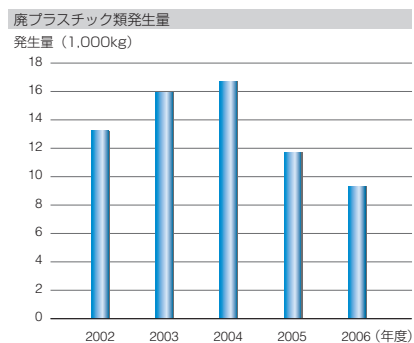
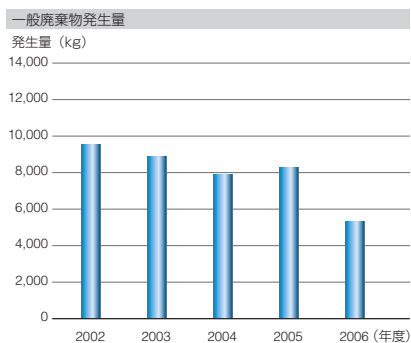
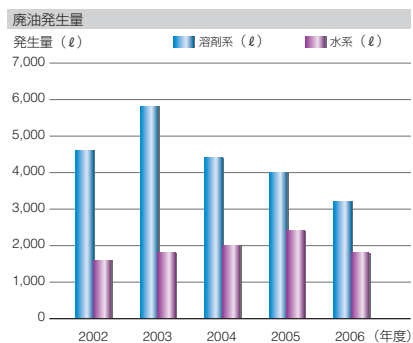
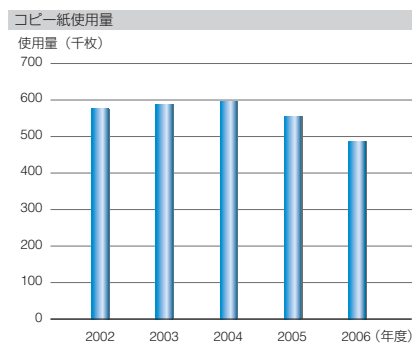
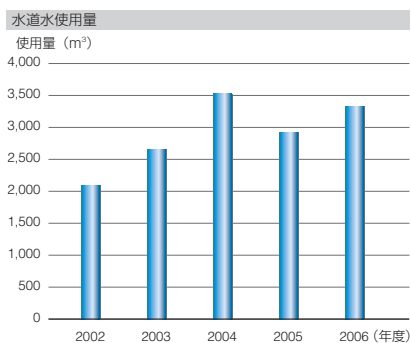
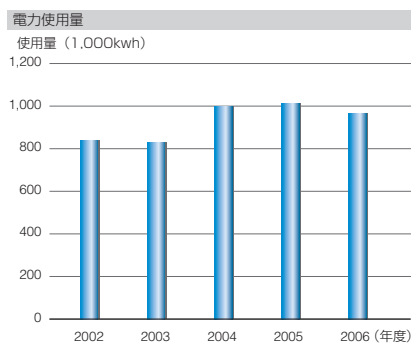
環境データ

工場環境データ



注1) 原単位とは、使用量を当社フィルム製品の製造量 (m,m²数) で割ったものです。
注2) 集計方法の変更に伴い、一部データが昨年の数値と異なっています。

技術開発センター環境データ



グループの概要とCSRの取り組み

KIMOTO

株式会社 きもと

- ① 本社 〒160-0022 東京都新宿区新宿2丁目19番1号
- 支店
- ② 札幌 〒060-0005 札幌市中央区北5条西17丁目4番12号
- ③ 仙台 〒980-0011 仙台市青葉区上杉5丁目8番62号
- ④ 関東 〒338-0832 さいたま市桜区西掘9丁目23番5号
- ⑤ 名古屋 〒456-0053 名古屋市熱田区一番2丁目9番15号
- ⑥ 大阪 〒540-6591 大阪市中央区大手前1-7-31 OMMビル3階
- ⑦ 広島 〒730-0846 広島市中区西川口町6番1号コマツエスレートⅡ3階
- ⑧ 福岡 〒812-0015 福岡市博多区山王2丁目6番20号

営業所

- ⑨ 筑波 〒305-0821 つくば市春日4丁目1番4号
- ⑩ 沖縄 〒900-0005 那覇市字天久762番1号

物流センター

- ⑪ 茨城物流 〒306-0212 古河市久能1061番1号
- ⑫ 三重物流 〒511-0411 いなべ市北勢町京ヶ野新田字下周田450番地

工場・研究所

- ⑬ 茨城 〒306-0213 古河市北利根13番地
- ⑭ 三重 〒511-0411 いなべ市北勢町京ヶ野新田字溜尻73番5号
- ⑮ 研究部 〒338-0013 さいたま市中央区鈴谷4丁目6番35号
- ⑯ eAI技術部 〒338-0013 さいたま市中央区鈴谷4丁目6番35号

海外事務所

- ⑰ 上海（中国）
- ⑱ 台北（台湾）

KIMOTOグループ

国内子会社

- ⑲ 株式会社 キモトテクノ（東京都）
- ⑳ 株式会社 グラフィカ（沖縄県）

海外子会社

- ㉑ KIMOTO AG（スイス）
- ㉒ KIMOTO TECH, INC.（米国）
- ㉓ 瀋陽木本実業有限公司（中国）
- ㉔ KIMOTO POLAND Sp. z o.o.（ポーランド）



連結子会社の社長の思い

KIMOTO AG

President 船山 研一



1974年2月、スイスのチューリッヒにKIMOTO AGが設立され、当初は、印刷製版材料のヨーロッパ拠点としてスタートいたしました。

KIMOTO AGは、中立国としての立場とバイリンガルとしての特長を生かし、すでに30年以上の歴史を持ち、ヨーロッパだけでなく広く中近東、アフリカおよびロ

シアなどの広範囲な地域にビジネスを展開してまいりました。

今日、企業の社会的責任（CSR）の重要度は増して来ており、KIMOTO AGは、主にそれぞれの地域においてビジネスをとおして社会貢献することと認識しております。

継続的な技術革新、新製品開発などによる貢献は、ステークホルダーとの積極的なコミュニケーションを得て成し遂げられると考えます。

KIMOTO AGは、健全かつ継続的にビジネスを成長させていく所存です。

KIMOTO TECH, INC.

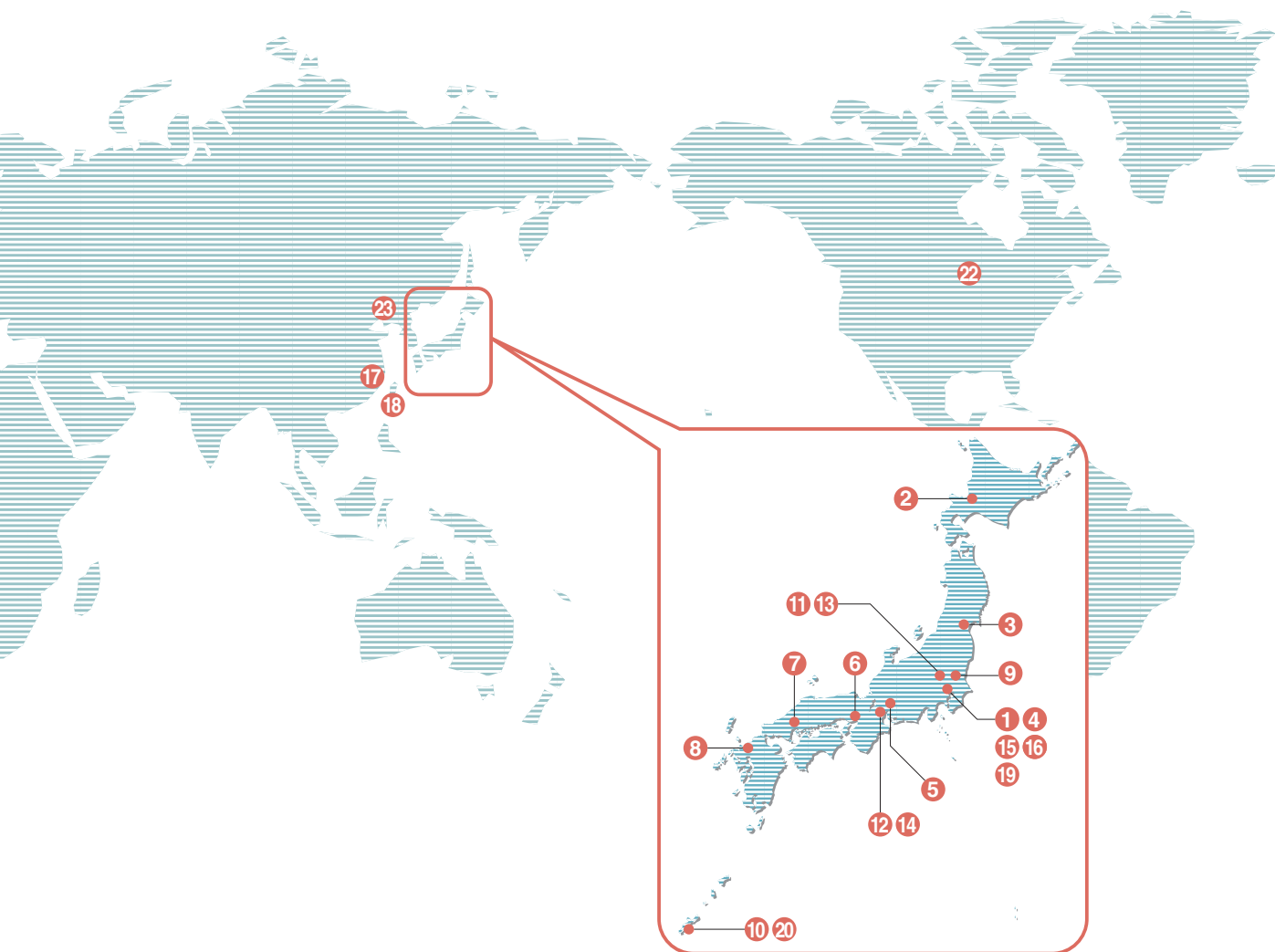
President 笹岡 芳典



1985年、米国ジョージア州の小さな町“シーダータウン”に、KIMOTOグループの製造子会社KIMOTO TECH, INC.が設立され、1995年にはISO 9001の認定工場となりました。その後、すでに米国現地法人として設立されていた販売会社KIMOTO USA INC.と合併し、米国内5カ所の営業拠点、製造部門、研究部門を持つ

製造販売会社として米国市場の開拓を進め現在に至っております。

KIMOTO TECH, INC.は、2006年10月よりCSR活動の準備を開始し、2007年にはCSR推進のための基盤づくりとして、まずは『CSR/企業の社会的責任』の意識を浸透させることを優先的に進める予定です。また、さらに将来は米国の風土に即した本格的な全員参加型のCSRを目指し、社会的責任を果たせる米国現地法人を確立してまいります。



株式会社 キモテクノ

代表取締役社長 越川 国昭



当社は、KIMOTOにおけるLCD用拡散フィルム（ライトアップ）の一部製品について、その最終工程を主業務として担当しており、その工場は茨城および三重の本社工場内に併設され、型抜き・検査・製品出荷の業務を行っております。

当社の製品は、主に液晶テレビ用途に供給されており、地上波デ

ジタル放送への切り替えに伴い今後ますますの増産が見込まれることから、当社では安定した製品供給とさらなる高品質を目指しております。また、グループ本社の指導の下、EMS委員会を通じた環境問題への取り組み、基本的なコンプライアンスに関する事項の確認、そして企業としてのリスク管理、これらを全従業員の目からチェックできる企業ヘルプラインなど、CSRの目指すところを日々心がけ努めてまいります。

瀋陽木本実業有限公司

総経理 陳 青



瀋陽木本実業有限公司（SKI）は、1991年に設立され、現在では従業員180名が、①GIS（地理空間情報システム）のデータ処理 ②DTPのプリプレス処理 ③デジタル製図 ④印刷機材、広告用機材の生産、販売と輸出入の業務を行っています。遼寧省政府に何度もハイテク企業、優秀な外国投資企業およびガーデン式企業に選ばれ

ました。2000年には“ISO9001”の品質管理システム認証を取得しました。

昨年、SKIはCSR計画を作成し、貧困地区の学校を中心に学生の学力と生活力を高める寄付活動を展開しました。会社より、中古パソコンを20台、100人近い従業員より金銭、防寒服、防寒靴、鞆等を寄付しました。

今後とも、絶えまなく努力してKIMOTOグループ・株主の利益向上に貢献していきます。また、従業員の待遇を改善し働きやすい環境づくりを行い、地域社会に大きな貢献ができる会社に育つように頑張りたいと思います。

KIMOTOの歩み

1952	有限会社きもと商会設立	
1961	株式会社きもと商会に組織変更	
1962	埼玉県与野市（現、さいたま市）にコーティング工場完成、機能性フィルム [※] の製造および関連事業の開始	
1965	埼玉工場落成	
1966	大阪営業所（現、大阪支店）開設	
1967	株式会社きもとに商号変更	
1969	茨城工場新設	
1970	札幌駐在所（現、札幌支店）開設	
1971	仙台に株式会社東北きもと設立、名古屋営業所（現、名古屋支店）開設	
1972	福岡営業所（現、福岡支店）開設	
1973	埼玉営業所（現、関東支店）開設、広島営業所（現、広島支店）開設、販売会社 KIMOTO USA INC.をアメリカに設立	
1974	販売会社 KIMOTO AG をスイスに設立	
1977	測量業に登録 登録No.（1）-9025号	
1979	筑波営業所開設、三重工場（現、三重第一工場）新設	
1981	埼玉県与野市（現、さいたま市）に中央研究所（現、技術開発センター）開設 創立30周年記念行事「アルプホルンとスイス音楽の集い」を開催	
1985	製造会社KIMOTO TECH,INC.をアメリカに設立	
1987	第七回科学技術長官賞を受賞 三重第二工場新設、KIMOTO TECH,INC.アトランタ工場完成	
1989	サッカーコミュニケーションを開催（～'97）	

1991	株式会社東北きもと、株式会社沖縄きもとを株式会社きもとに合併、中国遼寧省瀋陽市に製造会社瀋陽木本數據有限公司（現瀋陽木本実業有限公司）を設立 故木本氏仁創業社長 黄綬褒章受章	
1992	三重第三工場新設 イングリッシュコミュニケーションを開催（～'97）	
1994	日本証券業協会（ジャスダック）に店頭登録「登録No.7908」	
1995	販売会社 KIMOTO USA INC.と製造会社KIMOTO TECH, INC.が合併（存続会社KIMOTO TECH,INC.）、KIMOTO TECH,INC.「ISO9002:1994」認証取得、三重 工場、茨城工場「ISO9002:1987」認証取得	
1996	製造会社志村化研工業株式会社（現、株式会社キモテクノ）の株式を100%取得	
2001	eAI技術部、情報システム事業部「ISO9001:2000」認証取得、三重工場「ISO14001:1996」認証取得	
2002	茨城工場、物流センター（茨城、三重）、技術開発センター（研究部、eAI技術部）、株式会社キモテクノ「ISO14001:1996」を拡大認証取得、情報システム事業部門（eAI技術部、本社、情報システム営業部、札幌支店）にて「ISO9001:2000」を拡大認証取得、KIMOTO TECH,INC.「ISO9001:2000」へ移行認証取得	
2003	機能性フィルム事業部門（本社、各支店）、茨城工場、三重工場、研究部、物流センター（茨城、三重）にて「ISO9001:2000」を移行・統合・拡大認証取得	
2004	株式会社キモテクノ三重工場を新設	
2005	東京証券取引所市場第二部へ上場、技術開発センター（情報システム事業部門）で「BS7799:PART2:2002」認証取得「ISMS認証基準（Ver.2.0）」取得、三重第四工場新設	
2006	東京証券取引所市場第一部へ上場 製造会社瀋陽木本數據有限公司を製造・販売会社瀋陽木本実業有限公司へ社名変更 製造・販売会社KIMOTO POLAND Sp. z o.o.をポーランド共和国に設立	

第2号発刊にあたって

KIMOTOではCSR活動を2005年からスタートいたしました。活動は、肩肘を張らずに、できることから実行していこうという姿勢で進めており、メンバーの全員が所属部署の業務を行いながらCSR活動に参加しております。

初年度は手探りの状態でしたが、2年目の本年度には社内の認識も高まり、活動にも広がりが出てまいりました。3年目の来期には、海外を含むグループ全社において活動を予定しております。

現代の企業には、地球温暖化をはじめとする環境および社会とのさまざまな関わりが生じており、注意深く適切に対応していかなければなりません。当社グループは今後も積極的にこれらの課題に取り組んでまいります。

私どもは、このCSRレポートにより、ステークホルダーの皆様当社を知っていただくとともに、皆様の声を反映させて、当社をより良く強化していきたいと考えております。

本レポートの内容、あるいはCSR活動に関する皆様のご意見、ご質問をお待ちしておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

常務取締役
経営企画本部長
CSR委員長
山縣 敏雄



お問い合わせ

株式会社 きもと

〒160-0022 東京都新宿区新宿2-19-1

TEL : 03-3350-4704

FAX : 03-3350-9380

<http://www.kimoto.co.jp/>

KIMOTO

株式会社 きもと

〒160-0022 東京都新宿区新宿2-19-1

TEL : 03-3350-4704

FAX : 03-3350-9380

<http://www.kimoto.co.jp/>



2007年6月発行